

学校関係者評価委員会報告書

令和 7 年 7 月 25 日

学校法人大麻学園 四国医療専門学校

学校関係者評価委員会

四国医療専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和 6 年度自己点検・評価報告書」に基づき、以下のとおり、学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

I. 学校関係者評価の目的

本校は、教育の一層の充実と教育水準の向上を図り、学則第 1 条の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動その他の学校運営等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに、教育活動その他学校運営の状況に係る外部評価を実施することを目的とする。

II. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、本校の「令和 6 年度自己点検・評価報告書」を基に『文部科学省 専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って実施することを基本方針とする。

III. 学校関係者評価委員〔敬称略〕

・地域住民の代表者

谷川 俊博（宇多津町長）

・学校と関連のある高等学校関係者

平尾浩一郎（香川県立丸亀城西高等学校 校長）

詫間 裕一（香川県立飯山高等学校 校長）

村上 盛彦（香川県立琴平高等学校 校長）

・保護者代表

大浦 誠（鍼灸マッサージ学科学生の保護者）

・卒業生代表

林 広野（作業療法学科卒業生）

吉田 剛志（看護学科卒業生）

・業界団体の役職者

宮武 功哲（一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会 会長）

中西 慶（一般社団法人香川県鍼灸師会 理事）

高橋 司（公益社団法人香川県柔道整復師会 会長）

中島 由美（一般社団法人香川県理学療法士会 理事）

若林 佳樹（一般社団法人香川県作業療法士会 理事）

富山 清江（公益社団法人香川県看護協会 会長）

IV. 学校関係者評価委員会 議事録

・開催日時 : 令和7年7月6日(日) 13:00~14:00

・開催場所 : 四国医療専門学校 2号館 5階 501教室

・出席者

委員: 谷川俊博(議長)、平尾浩一郎、詫間裕一、村上盛彦、大浦 誠、林 広野、吉田剛志、
宮武功哲、中西 慶、中島由美、若林佳樹、高橋 司

学校職員: 大麻正晴(学校法人大麻学園 理事長)、青木みゆき(四国医療専門学校 学校長)、山下
久美子(副学校長)、高橋謙一(教務部長/進行)、杉本良子(鍼灸マッサージ学科・鍼灸
学科 学科長)、山本幸男(柔道整復学科 学科長)、穴吹泰典(理学療法学科 学科長)、
山川公彦(作業療法学科 学科長)、入江和子(看護学科 教務主任)、六車輝美(看護学
科 学科長)、名越文人(教務課長)、大野幸重(学務課長/書記)

・欠席者

委員: 富山清江

・議事の経過及び結果

1) 開会

学校より、開会を宣する旨の発言があった。

2) 理事長挨拶

理事長の大麻は、委員の皆様に対し本委員会出席に対する謝意を述べた後、来年、創立 70 年の
節目の年を迎えるにあたり、本年 4 月新しく学校長に青木みゆきが就任し、新体制でスタートを
切った旨説明を行った。また、昨年の学校教育法の改正に伴い、来年から高度専門士の称号が付
与される本校の理学療法学科、作業療法学科、看護学科においては第三者評価が義務化となる。
教育の質の担保を図る学校として、今後も本校が率先して実施していく決意を述べた。加えて、
昨今の少子化問題を含め学校を取り巻く社会環境の変化に対応するべく、更なる教育の質の向上
と改善に取り組むためにも、適正な自己点検評価を実施し、より良い学校作りを目指したいとし、
忌憚のないご助言を頂戴したいと挨拶を行った。

3) 学校長挨拶

学校長の青木は、就任挨拶の後、香川県における高等教育機関への県内進学率が 17%と低い現状、
少子化の影響も相まって、本校でも年々学生の確保に苦慮している現状を伝えるとともに、それ
でも地域の方々の健康を支えられる人材育成に尽力していきたいと述べ、本会議で忌憚のないご
意見・ご提言をお願いしたいと挨拶を行った。

4) 委員会成立確認及び議長選任

学校は、委員総数 13 名のうち 12 名の出席により本委員会が成立することを確認した。

また、「四国医療専門学校 学校関係者評価委員会規程」第 3 条第 2 項の規定に基づき、委員に
よる互選の結果、谷川俊博委員が議長に就任することが全会一致で承認され、挨拶を述べた。

議案の審議

1. 令和6年度自己点検・評価と教育・学校運営に関する意見交換（ご意見・ご提言等）について

議長の指示により学校は「令和6年度自己点検・評価報告書」に基づき、重点目標の評価と改善方策、学生募集状況、教育活動、学修成果、学生支援などについて学校全体の概要説明を行った。

以上の説明を受け、議長は委員に対し質問を求めたところ、次のとおり意見・質問があり、本校は以下の回答を行った。

●委員からの質問

①GPAの仕組みについて教えていただきたい。

②評価点の基準と、その評価点は学生・保護者の意見に基づいたものであるのか。

○本校からの回答

①GPA（グレートポイントアベレージ）とは成績評価で使われる学業成績を数値化した指標であり、本校では全体の学習到達度や今後の学修計画に活用している。

②評価点の基準は専修学校の評価基準に則り、まずは各学科で4（適切）～1（不適切）の4段階評価を行い、その後学内の学校関係者評価委員会で協議し最終決定をしている。自己評価点には学生・保証人の意見は含まず、設問に対して学校として達成できたか否かで評価を行った。ただし、学生にアンケートを実施したか否かについては評価の対象としている。

●委員からの質問

高等学校の看護専攻科を卒業した生徒が1年間で保健師の資格が取得できるとして、複数名大阪の大学に進学した。県内進学者が少ないとのことだが、九州医療科学大学の併修制度の中で御校でも保健師の資格取得をすることはできないものか？

○本校からの回答

貴重なご意見として、今後検討していくようにしたい。

●委員からの質問

報告書の中に『近年勉強の仕方が分からない学生が増えてきた』とあるが、以前と今では学生にどのような違いがあるのか、またその対応はどのようにしているのか。

○本校からの回答

（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科）

通信制高校を卒業した学生が増えており、学校に通う習慣がなく、毎日学校に通うところからの指導が必要になっている。家庭訪問や親御さんへの連絡を密に取りながら指導を行っている。

また、実習室を開放することで学生の手技の自主練習を促し、下級生は上級生から勉強の仕方や礼儀を学ぶ機会となっている。

（柔道整復学科）

学習到達度の低い学生について、放課後残って勉強させているが、身に入っていないのか結果がでない。授業中、全体に対しての質問をA君に投げかけると、その質問はA君にしか届かず、他の人は自分への質問と捉えないといった個別化の傾向が目立つように感じている。

（理学療法学科）

仲間との協力が苦手な学生が増えたように思う。昨日（7/5）の学園祭のように学校行事を通して

自分の役割と他者への配慮や関わり方を学んで欲しいと思っている。勉強については、1 年次から教育ラダーを導入し、勉強とレポート提出を繰り返すことで、日々の勉強習慣と知識の定着を図っている。

(作業療法学科)

作業療法士に求められる適性として、相手の気持ちに寄り添い患者さんやその家族と良好な信頼関係を築けるコミュニケーション力が求められるが、最近は消極的な学生が増えたように感じている。ボランティア活動を通して、地域貢献やコミュニケーションスキルの向上をテーマとして日々指導を行っている。

(看護学科)

高等学校で学習習慣ができて入学してきた学生と、そうではない学生の二極化が進んでいると感じている。どこの学生に軸を合わせるかが難しく悩んでいる。勉強については『できるようになる』より『できたという達成感』を得られる方に重点をおき、指導を行っている。

●委員からの質問

鍼灸マッサージ学科に子供が入学し、授業開始のかなり前から学校に行き勉強しているようで、学習習慣が付いてきたことに感謝している。せっかく医療国家資格に特化した専門学校なので、入学学科以外の学科との学びの交流ができる機会があるのか教えて欲しい。

○本校からの回答

多職種連携教育として、職種の相互理解と学生間の交流を図る目的で学科を越えて合同授業を行っている。また本校の附属治療院では、臨床実習の協力患者を学生や地域住民に広く募っている。

●委員からの質問

業界の同窓会代表として、入学式・卒業式に参加しているが、学生が減ってきた感は否めない。入学生を増やすために同窓会として協力できることはないか？

○本校からの回答

有資格者からの紹介制度があるので、ぜひ広く声掛けをお願いしたい。

●委員からの質問

最近、SNS 等の『資格あるある動画』でネガティブな情報が多く発信され、資格の悪いイメージが先行している。正しい情報を高校生に伝えることで職業の素晴らしさを理解して欲しい。機会があれば卒業生として国家試験対策の勉強の仕方など協力もできるのではないか。

○本校からの回答

毎年 8 月のオープンキャンパスでは、卒業生講話を企画し、入学前の高校生に直接声を届けてもらっている。国家試験対策についても、今後はぜひ協力をお願いしたい。

●委員からの質問

鍼灸マッサージ学科の国家試験合格率の低下が気になる。当該学科は社会人入学生が多いので、教育訓練給付金制度の認定が外れることのないよう気をつけて欲しい。具体的対策は何か行っているか。

○本校からの回答

国家試験合格率の改善策として、昨年より早目に国家試験対策に取り組んでいる。
また、教育訓練給付金制度については、現在の鍼灸学科 3 年生において国家試験と就職が順調にいけば、来年、鍼灸学科の認定も復活できる見通しである。

■委員からの提言

業界自体が会員数の減少などの問題を抱えている中、先日 NHK で鍼灸の効果が取り上げられ、世間の関心が追い風になっている。また、鍼灸治療を受けたことはないが興味を持っている人は多く、学校と業界が連携を取ることで、学生が増え、延いては業界も盛り上がるようにしたい。

■委員からの提言

昨年 7 月、高松で開催された（公社）日本柔道整復師会 四国学術大会の際は学校には大変お世話になり、ありがとうございましたとの謝意の後、今年の四国地区の開催地は愛媛だが、ぜひ学生にも参加を促してもらえれば、業界とのコミュニケーションが取れるのでは。

■委員からの提言

これまでの報告を聞き、学生の現状と先生方の苦労を理解した。臨床現場においても近年の実習学生の学ぶ気持ちの熱量の低さが気になっていた。実習指導時間の適正化など医療現場においても働き方改革が進み、実習指導者の満足度も下がっている。今回、先生方のご苦労が共有できたことで、今後、教育機関と医療機関が情報交換し、協力できることがあるのではないかと感じた。

■委員からの提言

報告書の中にある卒業生からのアンケート「カリキュラムや授業構成が良かった」の設問に対し「非常にそう思う・そう思う」が 23.5%と学習の土台となる重要な部分であるにも関わらず低い数字が気になる。具体的課題をしっかりと明確にし、対策を講じて欲しい。

2. 閉会

議長は総括として、本日いただいた様々なご意見を参考に、より良い学校になるために活かして欲しい。また行政の立場として、保健師、介護士、ケアマネージャー等、専門職の重要性は切実であり、無くてはならないものである。今の時代、AI で調べるとすぐ答えが出てくるが、それを使う側が、必要なところと普遍的なところを正しく理解し、AI ではできない専門職の人材を育成して欲しいと述べた。

以上で議題が全て終了したことを報告し、本委員会の閉会を宣した。

【学校側の対応】

各委員の皆様から賜りました貴重なご意見・ご提言を参考にさせていただき、今後、再度点検のうえ、教育活動・学修成果・学生支援の向上、教育環境の整備、国家試験対策、就職支援及び学校運営等の改善などを図り、より良い学校作りを目指して、教職員一同、日々努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

以上